

(別紙様式)

令和8年度学校経営計画書

学校名 三次市立栗屋小学校

校長名 高槻 雄志

I 学校の状況

学級数	4	児童・生徒数	22	教職員数	8
メールアドレス	awaya-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/elementary/awaya				

II 学校教育目標

笑顔でチャレンジ
～仲間と協力し 努力を楽しむ子の育成～

III 使命・存在意義（ミッション）

ミッション

社会の中で自律して生きる力を有した子供を育てる。

ビジョン

- ① 安全安心な教育環境の整備に努め、児童が安心して学び、教職員も安心して職務に専念できる学校づくり
- ② 学力向上を前提とした「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体化を実現する算数科を中心とした研究の充実と授業の実践
- ③ 学校再配置を視野に、「やさしく たくましく」「好かれる人になる」を目指し、学習意欲・生活意欲、資質・能力の向上を意識した実践
- ④ 新コア・カリキュラム実践・改善による、資質・能力の向上と郷土愛の育成

IV 重点事項（努力点）

- ① 安全安心な教育環境を追求し、常に事件・事故の未然防止、様々な感染症に対し健康管理に留意した指導・管理を組織的に展開する教職員集団を育成する。
- ② 児童一人ひとりが大切にされ、安心して学び、生活するため、あらゆる教育活動を活用しその充実・推進を組織的・恒常的に展開する。ICTを活用した教育について効果的な活用方法を継続して研究する。
- ③ 学習意欲・生活意欲、資質・能力の向上に向け「学びの変革」を具現化した授業を実践する。
- ④ ふるさと三次を常々意識化させる取組により、ふるさとを誇りに思い、郷土愛を育む。

十日市中学校区のめざす資質・能力

- ・表現力（目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫して表現する力）
- ・主体性（自分で決めて、考えて行動することを自ら繰り返せる力）
- ・協働性（他者の気持ちを想像し、自分の気持ちとの折り合いをつけることができる力）

V 中心価値・行動規範

- 危機管理を徹底し、安心・安全な学校を目指します。
- 児童の学ぶ力を伸ばすため、主体的・対話的で深い学びを推進します。
- 職責を自覚し、組織的に協働して職務を遂行します。
- 研修の充実と業務改善により、プロとして教職員の指導力向上と健康維持に務めます。

VI 現状分析

【確かな学力】

学校全体で、学習内容の定着が十分でないことは近年の本校の課題である。R7年度は単元末テストごとに学習内容の定着を確認し、不十分な際には指導の工夫改善を図った。特に、基礎的・基本的な事項の定着に重点を置くことで、単元末テストの結果から、学習内容の定着が図られていることを確認した。

評価指標	R7前期	R7後期
単元末テストにおける学校平均 ① 知識理解	国73.0 算79.2	国77.5 算83.0
単元末テストにおける学校平均 ② 思考・判断・表現	国73.5 算65.7	国78.1 算71.4
学びの過程や振り返りを具体的に分かりやすくノート等に行っている児童90%以上。	44%	53%

一方で、三次市学力到達度検査の結果から、単元末に定着した学習内容が長期的に記憶されないことや「読むこと・書くこと」に大きな課題があることが明確になった。

【豊かな心と健やかな体】

本校独自に「挨拶、時間の意識、当番活動、自己肯定、他者肯定、人との関わり」に関して生活アンケートを実施している。R7年度は自己肯定に関わる項目以外が概ね高い数値を示し、児童が自律的な行動を意識していることがうかがえた。

評価指標	R7前期	R7後期
生活アンケート ・自分には良いところがある	67%	63%
生活アンケート ・友達から「頑張ったね」「すごいね」と褒められて、嬉しかったことがある。	67%	83%

一方で、自己肯定感に関わる項目は、肯定的な回答が少なかった。ところが、友達に対して良いところを伝える児童は学校全体での取組もあり増加した。相関関係が十分成立していないところから取組全体の見直しが必要である。

体力向上に向けて、本校では年間を通じて様々な取組を進めている年度2学期以降校庭が芝生から土に変わったことで、コンディション不良で遊べない日が減り、外で体を動かす児童が非常に多くなった。

【信頼される学校】

令和7年度は、生徒指導上の諸問題に係り積極的に認知し、関係児童への継続的な指導や保護者との連携をチーム粟屋小として組織的な対応に当たった。年度当初に比べ、学校での児童の生活は落ち着いたものになり、学習へ向かう姿勢も改善された。児童会執行部を通じて「粟屋小トラブル0のやくそく」を制定し、自律した児童像に向かう機運が高まった。

	生徒指導上の諸問題		
	暴力	いじめ	不登校
令和5年度	1	0	3
令和6年度	0	0	5
令和7年度	5	2	3

令和8年度の取組

【確かな学力】

- ・個別最適な学びと特別支援教育を基盤にした授業を展開する。
- ・知悉語彙数増加を念頭に「読む」「書く」を意図的・継続的に取り入れる。

【豊かな心と健やかな体】

- ・新コア・カリキュラムのみならず学校教育全般を資質・能力育成の場とし、循環的な指導を行う。
- ・年間を通じて、教職員の指導の工夫ができ、児童自らが成長を実感できる運動に取り組ませる。

【信頼される学校】

- ・生徒指導を組織的・計画的に取り組み、安定した学校・学級経営の基盤づくりを徹底する。
- ・教職員が学校運営を自らの言葉で語り、協働性・同僚性を発揮するとともに、機嫌よく職務にあたる。

Ⅶ 中期経営目標及び短期経営目標

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策
確かな学力	自らの考えを豊かに表現することができる児童を育てる。 【表現力】	○教科書の内容を理解し、活用問題も解くことができる。 【成果指標】 単元末テスト(算数科、国語科) ・知識及び技能の学校平均の正答率80%以上 ・思考力・判断力・表現力等の学校平均の正答率70%以上	①低学年から、基礎基本的な学習内容の定着を確認し、組織的な指導・支援により、確実な理解・定着を図る。 ②読む活動を意図的に取り入れ、読書活動の充実と文章理解の向上を図る。
		○自分の考えを相手に伝わるように工夫して発表したり、書いたりすることができる。 【成果指標】 ・発達段階に応じた学びの過程や振り返りをノート等に行っている児童80%以上 ・成果物を前期・後期それぞれ3点以上作品応募に出品	①ICTの有効的な活用も視野に入れ、かわり合いながら学ぶ場、自分の考えを伝え合う場を確保し、主体的な学びを深め、表現力を高める。 ②算数科の研究を中心に「ノート指導の充実」に取り組む。 ③成果物出品により自己肯定感を高め、表現することへの自信と意欲を高める。
豊かな心と健やかな体	心と体をきたえ、仲間とともにねばり強くチャレンジする児童を育てる。 【主体性】 【協働性】	○自己肯定感・自己回復力を高める。 【成果指標】 ・生活アンケートの項目のうち、自己肯定感、自己回復力に係る項目について、肯定的回答を22人中15人以上	①教育活動全般において「えがく⇒やってみる⇒ふりかえる」の循環を通して、失敗を成功に生かすことにつなげる。 ②自分の強みを見つけたり、友達の良いところを見つけ伝え合ったりする活動を通して、自己肯定感向上につなげる。 ③指導者による、児童の活動(行動)の価値付けを行い、自己肯定感向上につなげる。
		○基本的な生活習慣の確立と体力向上を図る。 【成果指標】8の字跳び ・前期(7月) 4月の記録に対する1.5倍 ・後期(12月) 7月の記録に対する1.2倍	①児童の運動への意欲向上につながる体育科授業改善や体育的行事(マラソン大会)、全校での体力づくりの取組(8の字跳び)を計画的・継続的にを行い、体力向上を図る。
信頼される学校	児童・保護者・地域から信頼される学校経営を行う。	○教職員の授業力向上を図る。 【成果指標】 ・校内研修の満足度100%	①授業者は、年1回以上研究授業を行う。 ②校外研修や研究会に2回以上参加し、校内研修や授業改善に活かす。
		○児童が安心安全に過ごせる学校環境の維持、向上を図る。 【成果指標】 ・児童の肯定的評価90%以上	①ホームページや通信、地域への配付物等で学校の取組を定期的に発信するとともに、細やかな家庭連携を行う。

